

いのち
生命を生みだす母親は 生命を育て 生命を守ることをのぞみます

2014年

第60回

日本母親大会

in 神奈川

ビキニ水爆被災から60年。
世界に「核戦争から子どもを守ろう」と呼びかけ、
草の根の母親・女性の願いや要求を語り、あゆみつづけてつづけて60年。
60回目の日本母親大会が神奈川県・横浜市を中心にひらかれます。
みんなでさそいあってあつまりましょう。



第1日目

全体会

8月2日 土 ●12時30分～17時

●会場 パシフィコ横浜・国立大ホール

記念講演 小森陽一さん(東京大学大学院教授)

「子どもたちに憲法が輝く明日を」

第2日目

分科会

8月3日 日 ●10時～15時

●会場 パシフィコ横浜・会議センター／神奈川学園中学・高等学校
子どもと教育、くらし、権利、労働、平和と民主主義、
女性の地位向上めざして、さまざまな問題をテーマ別に話し合います。



主催 ● 第60回日本母親大会実行委員会 東京都千代田区二番町12-1 全国教育文化会館内 TEL 03-3230-1836 FAX 03-3230-1837

開催 ● 神奈川県母親大会実行委員会 神奈川県横浜市中区扇町3-8-7 三平ビル302 TEL 045-641-8815 FAX 045-641-8896

協力 ● 関東ブロック各県母親大会実行委員会 (東京・栃木・茨城・群馬・埼玉・千葉・山梨)

母親が変われば社会が変わる!

母親運動のあゆみは日本の女性運動のあゆみです

母親大会のはじまり

—「日本婦人の訴え」から 「世界母親大会開催」へ

1954年、ビキニ環礁でのアメリカの水爆実験によってマグロ漁船員の久保山愛吉さんが亡くなりました。広島、長崎につぐ3度目の被爆に母親たちは怒り、平塚らいてうさんら5人は全世界にむけ「水爆禁止のための訴え」を送り、1955年スイスのローザンヌで世界母親大会の開催が決まりました。それに先立ち6月、第1回日本母親大会が東京で開かれ、日本各地の炭鉱や農村からも、1円募金などで送り出された2000人の母親が集まりました。世界大会には河崎なつさんを団長にあらゆる分野から代表を選び、14人が参加しました。はばひろい母親運動の出発点です。

母親大会のあゆみ

—くらし・平和を守ってたくさんの 母親・女性たちが行動

帰国後の報告会は、全国各地で数千回開かれ、各地に母親運動が広がりました。そして母親・女性たちの願いをかかげ、子どもたちを小児マヒから守るための生ワクチンの緊急輸入、学校給食の脱脂粉乳を生乳に、ポストの数ほど保育所を、高校全入や私学助成など教育問題、物価値上げ反対、地球環境・公害問題など母と子を取りまくさまざまな問題にとりくみ、貴重な成果をあげながら、59年余をあゆみつづけてきました。

世界母親大会によせられたギリシャの詩人ペリディス夫人の詩の一節「生命(いのち)を生みだす母親は 生命を育て 生命を守ることをのぞみます」は、今日まですべての母親・女性の心をとらえ、連帯のスローガンになっています。

神奈川にあつまりましょう

ビキニ水爆被災から60年。60回目の節目の日本母親大会は、神奈川県・横浜市を中心に開催されます。神奈川県には沖縄県につぐ米軍基地があります。横浜市は人口370万人の全国一大きい政令指定都市で、横浜港は近代日本の玄関として発展してきました。開催地神奈川県実行委員会では、全国のみなさんを迎えようと、全力で準備をすすめています。

1日目は47都道府県からの参加者が一堂に集まる全体会で、記念講演は小森陽一さんです。2日目はテーマに分かれての分科会です。

母親大会はだれでも参加できる大会です。厳しい情勢のときだからこそ、母親大会に集い、明るい未来をきりひらく力にしていきましょう。神奈川で開催される第60回日本母親大会に、北から南から、世代をこえてさそいあい、よびかけあつてあつまりましょう。